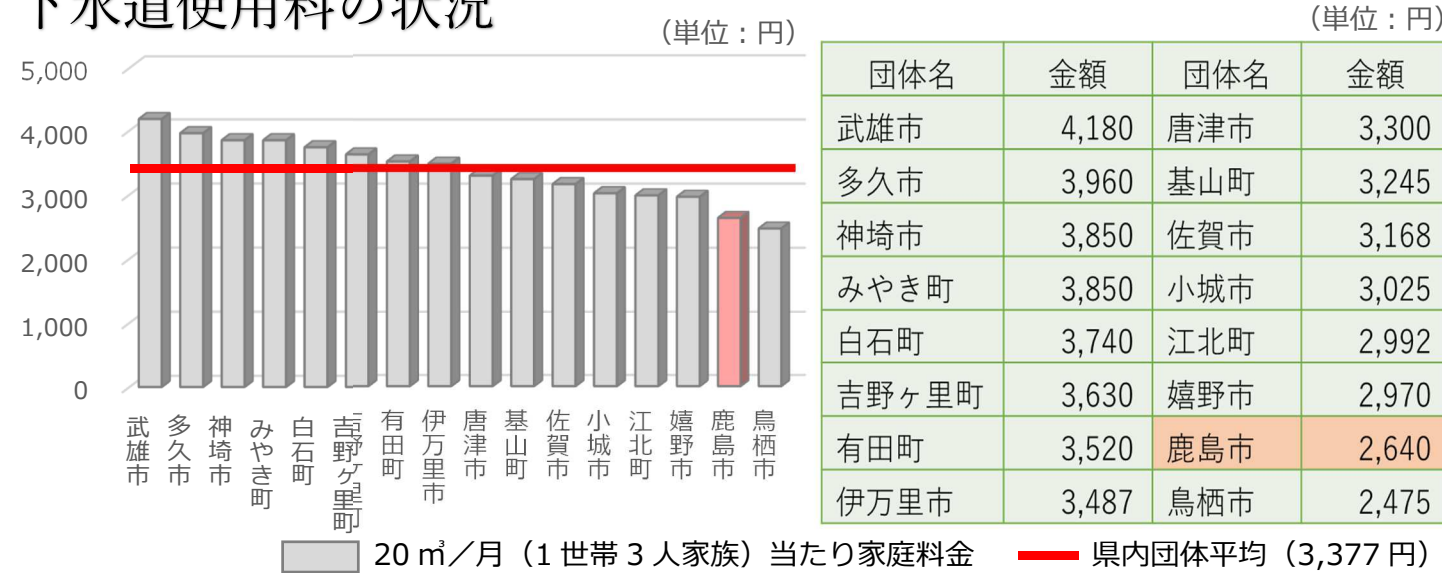


経営戦略改定の趣旨

公共下水道事業は污水管渠の整備推進をはじめ下水道終末処理場や雨水ポンプ場など多くの施設の改築更新を控えている一方、人口減少社会において下水道使用料収入は伸び悩み、経営環境は厳しくなることが想定される。そのような中、平成29年3月に「鹿島市公共下水道事業経営戦略（以下、「経営戦略」）」を策定し、将来に渡り安定的に事業を継続していくための中長期的な基本計画を作成した。また、令和2年度に「公営企業会計」へ移行し経営・資産等を正確に把握することができるようになったことから今回「経営戦略」を見直し、一層の経営基盤の強化と経営マネジメントの向上に取り組む。

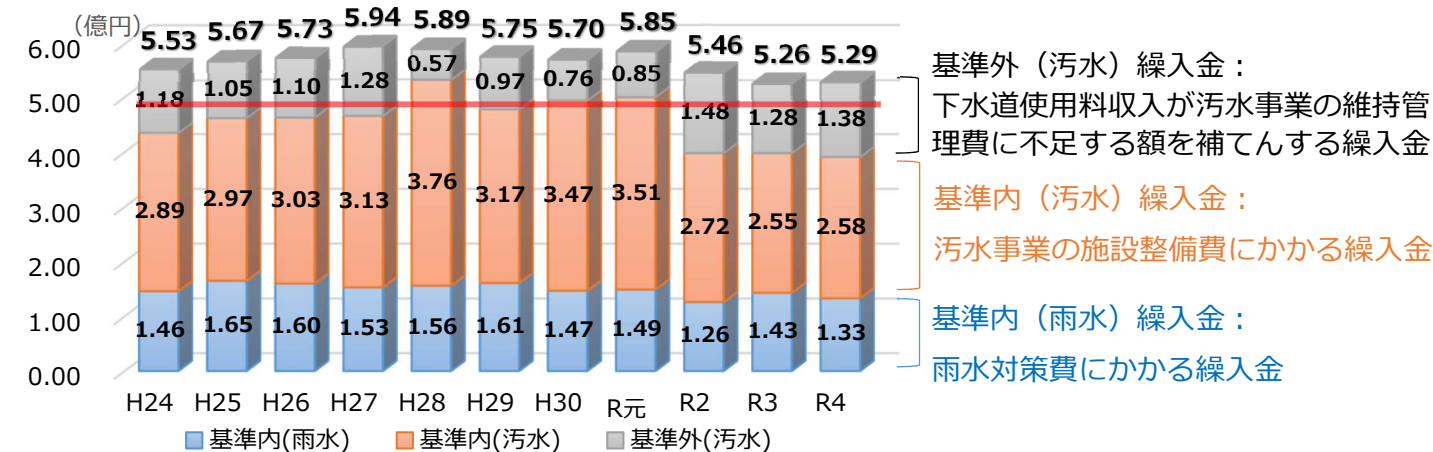
下水道事業の現状と課題

下水道使用料の状況



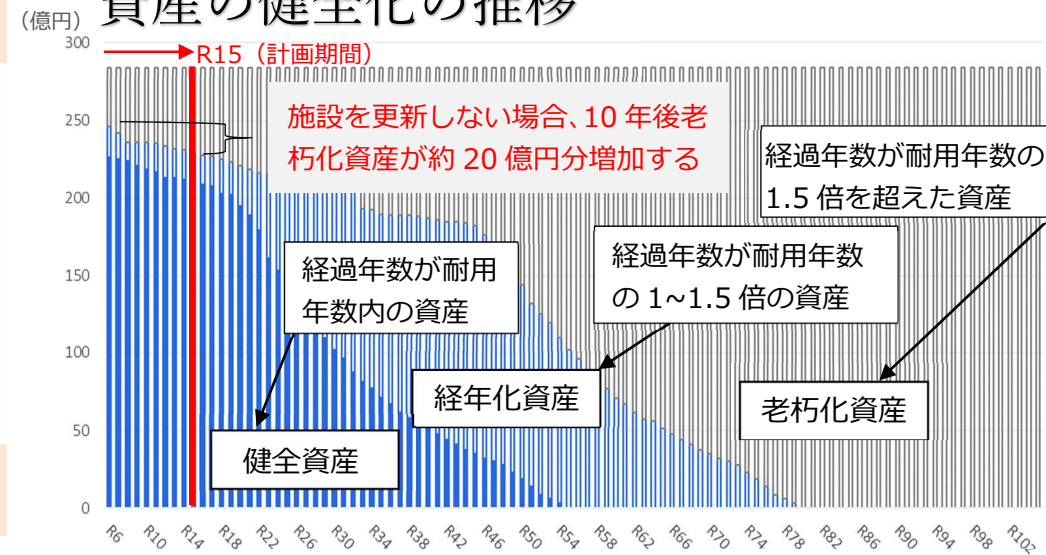
県内平均や国が示す基準である20 m³あたり3,000円を下回っており適正な使用料水準について協議・検討が必要である。

一般会計からの繰入金の状況



10年概成(污水处理人口普及率：80.4%)を目標に未普及解消事業(污水管渠新設)を促進したことにより污水处理にかかる基準内・基準外の繰入金が増額している。

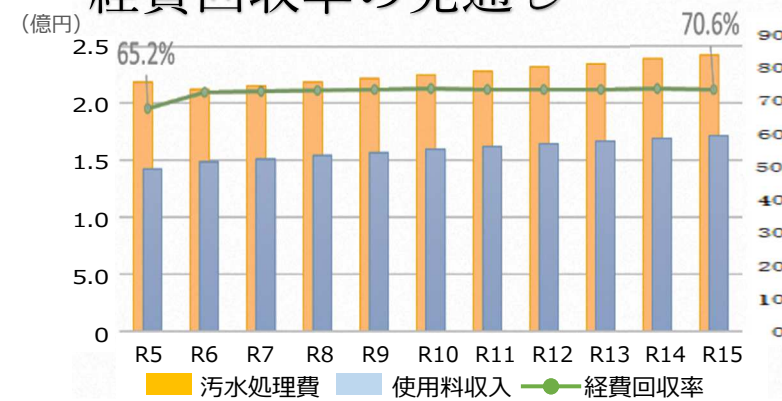
資産の健全化の推移



【固定資産】
 総額 約161億円
 【当初取得資産】
 総額 約280億円
 【全てが老朽化資産となる時期】
 令和80年度
 (令和4年度決算より)
 ※一般的に経年化資産での更新が望ましい

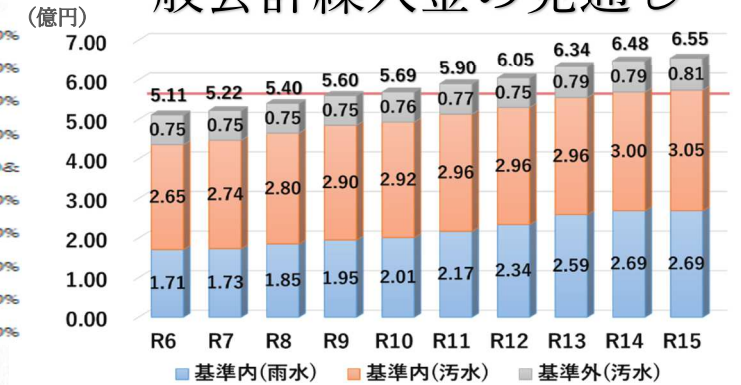
投資財政計画（現行計画）

経費回収率の見通し



污水管渠を新設していくものの人口減少と節水機器の普及等により下水道使用料収入は伸び悩み、一方で污水处理費用が増加するため経費回収率は横ばいに推移する見通しである。

一般会計繰入金の見通し



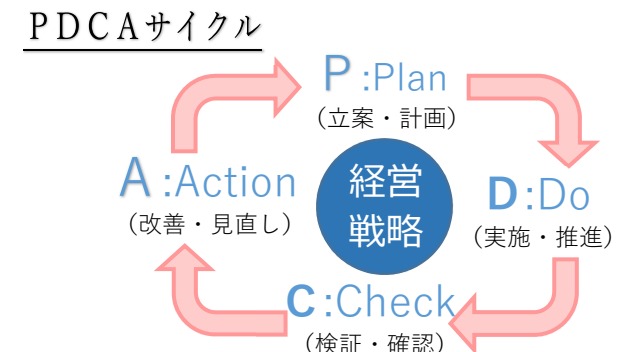
污水管渠の新設に対する繰入金が増加するが、それ以上に雨水処理施設の更新費用に対する繰入金の増加が大きく、今後一般会計の負担が大きくなる見通しである。

目標設定

- 【基本施策（改善の取組み）】
- ・ 接続促進による水洗化率の増加
 - ・ 財政の健全化による基準外繰入金の削減
 - ・ 下水道使用料収入の増加、経費削減による経費回収率の向上

- 【目標】
- 水洗化率：85%以上
 - 経費回収率：90%以上

進捗管理・検証・見直し



審議会を開催し目標達成に向けて事後検証・見直しを3年から5年毎に行う(ローリング)。